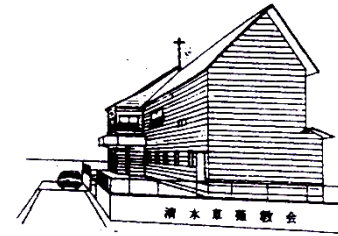


《今朝の聖書から》

“偽ってわたしの敵となった者どもの、わたしについて喜ぶことを許さないでください。ゆえなく、わたしを憎む者どもの、たがいに、目くばせすることをつるさないでください。(詩編35:19)”というみ言葉を、今朝の個所でイエス様は、25節において“その通りだ”と引用されます。先週もみましたように、信じるか信じないかは、委ねられています。しかし、あったことの実を改ざんすることは許されません。そして信じた者には、大きな力が与えられていることも否定できません。この教えには、中間的な立場が、どんな人にも認められない、どちらの立場にも、適当に相対するあり方は基本的にない、ということを示しています。“聖書には素晴らしい教えがいっぱい書かれていますし、信仰者を尊重もします。しかし私は信仰者ではない”という、一見現代的な考え方が、もし主張されたとしたら、どんなに不幸な結論にいたるか、考えてみればよく分かることです。イエス様は、今朝の個所で、苦難の予告と同時に、助け主も与えられることを約束してくださっています。“わたしが父のみもとからあなたがたにつかわそうとしている助け主、すなわち、父のみもとから来る真理の御霊が下る時、それはわたしについてあかしをするであろう。(26節)”とあるのがその約束です。そして私たちも、この証にふれて、主の民とされたのです。御霊は、住むところを私たちの身体としてくださいました。ですからその働き(証)は、まるでその人が動いているかのように見えるし、区別がつかないのです。信じる以前には、私たちは、すべての宗教と言えるようなものを等しく見ることができました。しかし、信仰をもった瞬間に、宗教を平等に認める力を失ったのです。平等に考えようとしても、どんな言い方が平等なのかということが、わからなくなってしまいます。18節にはじまる、“あなたがたが愛したとしても、この世はあなた方を憎むことになって、何一つの価値をも認めないことになっている”という言葉の通りです。イエス様に、癒された盲人が宮から追い出されたことがありました(9章)。この時も主は、直ちに助けの手を差し伸べられました。“イエスは、その人が外へ追い出されたことを聞かれた。そして彼に会って言われた、「あなたは人の子を信じるか」”。また別の個所で、信仰のことについて、どのように語ろうか、また弁明しようか、と考えるときがあります。その時に相応しく、また必要ない力を、主は与えてくださいます。

週報

2008年 4月 20日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸